



市政を斬る!! 一般質問

一般質問の原稿は、各発言議員が作成しています。

6月定例会の一般質問は、23日、24日の両日行われ、9名の議員が市政各般にわたり、一般質問を行いました。



小澤 長純
議員

問① この若狭湾に大津波が押し寄せたと仮定して、北川・南川の上流どの地域まで津波が来ると想定するか。

答 地盤高、地形等を基に科学的な検討が必要と考える。

問② 命を守るために、まずは、初期避難の行動計画を小浜市独自で策定し、定期的に訓練すべきと考えるがどうか。

答 避難施設の整理を行い、津波避難計画の作成や避難訓練を実施していく。

提案 後瀬山や天ヶ城など市街地の山々に、階段

をつけ、避難場所となる高台を数か所設けてはどうか。

問③ JA前企業誘致の借地や造成にかかる現在までの経費はいくらか。また、いつ頃正式決定される見込みか。

答 造成費・測量費等で3億8,750万円、平成17年度から22年度までの6年間の賃借料として1億3,780万円、合計では5億2,500万円を支出している。また、24年3月を目標に交渉してきたが、操業開始は遅れるといわざるを得ない現状である。



三木 尚
議員

問① 当市の原子力防災体制の徹底的な見直しに取り組む意志はあるか又自治体任せの訓練ではダメ住民に浸透できるものにする必要がある。

答 意志はある。

問② 国県の避難訓練に実質上の立地自治体として参加要請すべきだ。

答 要請していく。

問③ 道路の崩落等災害時に近隣自治体と緊密に連絡を取り対処すべきでないか。

答 検討する。

問④ 電力会社との安全協定の見直しは進めているのか、

実質立地自治体以上の立地自治体が当市である。

答 申し入れをしている。

提言 ポスト原発を考えて新エネルギー研究等当市も今後地域戦略を確立すべき。

提言 近畿7府県で構成する関西広域連合が東北大地震でも大活躍している。原発を多く持つ福井県が参加しなかったのは極めて残念、関西電力の影響下にあるところが集まっているのにこれに参加しないのは理解できない。また、北陸や中部へ入るつもりか。仮に福井県が関西入りに決断できないなら嶺南地域だけでも参加の準備をすべきである。



池田 英之
議員

1. 災害に強いまちづくりについて

問① 福島第一発電所事故を受けて市民の不安解消のため説明会等を行う予定はないか伺う。

答 原子力発電小浜市環境安全対策協議会を開催して、原発の安全対策の進捗状況等を説明させていただきたい。

問② 自主防災組織の現状と今後の育成方針について伺う。

答 今年5月末まで65団体、44%。震災後、防災への関心は高まっており、この機会を逃さず活動の活性化を図っていく。

2. 観光の振興について

問① 外国人誘客の取り組みについて伺う。

答 留学生の受け入れや教育旅行の誘致に努めたい。

問② 小浜ICの開通を観光振興にどのように活かしていくか伺う。

答 西紀や吹田等、大阪・神戸方面のサービスエリアを中心に、本市への誘客を促進するためのパンフレットを多数設置していく。

問③ 観光における本市の“顔”は何か伺う。

答 「食・自然・歴史・文化」と考えている。



宮崎 治宇蔵
議員

問① 原発の地震・津波対策について。

答(1) 嶺南地域に影響があったと思われる過去の主な地震については、1586年天正大地震、1662年寛文近江地震、1683年天和若狭三方地震、1704年宝永小浜地震、1747年延享若狭三方地震、1797年寛政若狭三方地震が記録として残っている。

(2) 知事は地震対策の影響確認や高齢年代の検証が不十分なこと、浜岡原発のみに運転停止を要請し、他は安全とした根拠がはっきりと示されていないことなど、安全性に確

証が得られない以上、定期検査プラントの再稼働は認められないと述べている。

問② 安全協定の見直しについて

答 市民の安全・安心確保のため、自らの判断で立ち入り調査ができ、運転再開の協議にも直接意見を述べられるようにしておくべきであり、立地並みの協定の見直しに向け関西電力や立会人の県、おおい町に対して積極的に働きかけていく。



下中 雅之
議員

問① 今回の台風2号時に、どこに避難すればよいかという声の中で、市指定の避難場所に対する不満もあったが、所見を伺う。

答 気象情報等で状況の悪化が予測される場合、早期の避難行動をお願いしたい。また、それぞれの地域や区、自主防災組織の皆様には、日頃から冠水や出水によって危険となる箇所を把握いただき、避難所への経路や地域における一時避難所の選定などを検討していただくことも必要であると考えている。今回の水害に対する市の対応について、

問題点等を総括し見直したい。

問② 市内で発生する空き巣事件等の被害の現状と実態を伺う。

答 小浜警察署管内での昨年中の発生状況は、空き巣20件、忍び込み5件の合計25件が発生している。市内での空き巣等の発生は、昨年の夏過ぎから主に新興住宅街において増加。

問③ 阪神淡路大震災の際に開発された被災者支援システム導入についての見解を伺う。

答 既に取り組まれている自治体の運用状況を調査、研究する。

録画配信始めました!!

インターネットで本会議の録画配信が視聴できます。

(要プロードバンド環境)

この機会にぜひご覧ください。

小浜市議会 |



ケータイで

議会情報をGet!!



URL はここから →



根本 正直
議員

問① 原子力防災の課題である「EPZ」の見直しが必要と思う、如何に取組むのか。

答 福島第一原発の事故では半径20km以内で立入禁止や退去、20km以遠でも計画的避難区域を教訓に、国は原子力防災指針について、何らかの見直しがあると考えている。

問② 原子力発電所に関する、立入り査察、損害や賠償、許認可の権限など、安全協定の見直しについて、どう取組むのか。

答 立入り調査や補償、許認可権限等、立地協定と同じ文言となるよう見直しを求める。

問③ 若狭消防組合の広域合併について。

答 今年2月に嶺南2市4町と敦賀美方・若狭両消防本部が初めて会議を持った。嶺南地域広域化市町検討会を7月に開催する。

問④ 県内の消防広域化で、市の今後の対応は。

答 嶺北地域2ブロックの広域化協議の推移にも注視している。平成20年3月に示された県消防広域化推進計画で県内3消防本部案は、当時と今回の地震や原発事故後の状況とは大きな相違があり、現広域化計画が妥当かについて、議論が必要と考える。



能登 恵子
議員

問① 「災害広報と住民参加型コミュニティ作り」として、災害時の緊急通報の多様な媒体の活用と被災地で最も有用なFMラジオの活用について伺う。

答 音声告知放送、チャンネル0による文字放送、データ放送、市HP、必要に応じ関係区長との電話連絡が周知方法で、今後デジタル防災行政無線の整備を進める。コミュニティFMラジオを実施他市町の状況把握、研究に努める。

問② 県内初の「小浜市の総合的な発達障がい者

支援計画から」現状と課題、インターネットを使った相談窓口の設置や保護者自身への支援、自助グループ作り、また支援員の専門的知識習得研修などを伺う。

答 136名在籍、個別に異なる状態と家庭環境などの要因が複雑で支援のあり方が困難。支援員が単年度雇用でレベルアップ継続も不安定だが努力する。コンピュータを使った相談窓口設置検討したい。ペアレントメンター(体験者をリーダーにした自助グループ)作りにも取り組み始めている。



松崎 圭一郎
議員

1. 災害への対策について。
 問 災害は、地震災害や津波災害や原子力災害だけではなく、我々の身近にも生命を脅かす危険災害がある。決してそれら災害には優先順位は存在せず、また、我々の命の安全は国や県や市の縄張り意識の域を超えた然る可き最優先課題でもある。例えて西津福谷の若宮台の場合、「土砂災害特別警戒区域」であるにも拘わらず、県と市に対する解消への要望が、十年来一向に受け入れられていないが如何なる理由か？

答 市民の生命の安全に関して、充分理解をしており、決してそこに躊躇があってはならない。また、例の若宮台については、まず砂防工事指定に向けて鋭意努力をしたい。

2. 特定失踪者について
 問 拉致問題を忌避するような不謹慎な政府関係者の発言を聴く中で、県内の協調体制の強化と確立に、更なる市町間の連携を企図すべきと考えるが如何か？

答 消極的と思える県や越前市等に、更なる協調への呼び掛けをしていきたい。



清水 正信
議員

問① 安心・安全な住みよいまちづくりについて
 政治の基本は治水にある。5月末の災害において大小200ヶ所以上において災害が発生。水鳥、山手や江古川区の冠水被害について、抜本的対策が必要。市の考え、対応を問う。

答 江古川区については、福井県管理で整備計画策定河川に選定。治水対策を行うこととされている。小浜市としては、今回の災害を受け、できるだけ早く事業採択されるよう県に強く要望したい。

将来展望により将来ビジョンを示し、既成の構造、かたちを変え、主要な公共的決定を行うのが政治の役割。政策力、自治体経営力の向上が極めて重要。効率化、スリム化により住民サービスの質、教育の質の向上を図る新しい持続可能な将来像を実現することが不可欠であり、効率化を図り、質を高めることが信頼を得る。

答 最小の経費で最大の効果が発揮できるよう、民間の経営感覚を取り入れ市民の視点に立って進めていく。

問② 行政サービスの質の向上と効率化について



濁流の中、応急作業を行う住民(福谷区:当時)

5月の水害復旧に8億超

5月30日、台風2号から変わった温帯低気圧の影響を受け、小浜市でも記録的な大雨となり、市内各所で冠水や土砂崩れなどが発生しました。

これに伴い、西街道をはじめとする市道、林道では法面崩落や路面損傷などの発生や河川や農地への土砂流入や、河川から大量に流れ出たヨシなどが海岸、砂浜に漂着するなど、大きなつめ跡を残しました。

緊急を要する部分については、6月定例会において災害復旧補正予算案が追加上程されましたが、議会としても早期復旧に向け、現地視察の上、即日可決いたしました。



災害箇所の現地視察(西街道:法海地係)



災害箇所の現地視察(鯉川シーサイドパーク)